

和歌山県立医科大学生協 Twitterを活用して声を集める



[組合員交流]

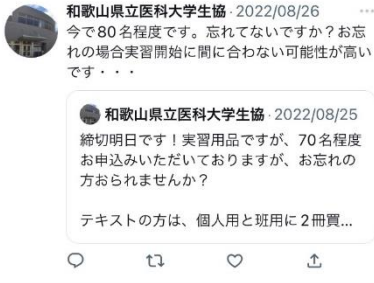
取り組み概要

日時：日常的に実施
場所：Twitter
組合員の反応：店長が発信する投票には
たくさんの票が集まっている。

背景や概要：医大では生協と組合員の関わりが他の大学と比べると希薄になってしまおうという課題から、SNSを活用して医大生組合員とのコミュニケーションを向上するために実施。

SNSで組合員の声を集めて事業につなげる

POINT.1 店長と組合員の関係性がカギ



組合員が和歌山県立医科大学生協から得る情報は店舗とTwitterがほとんどです。忙しい医大生がほとんどなのでTwitterで情報を取り入れることが多いようです。

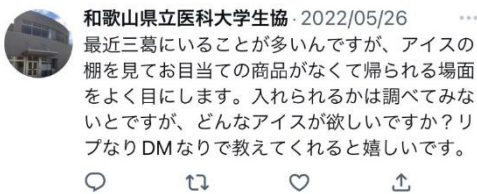
Twitterの運用は店長が行い、新商品や教科書、実験用具などの情報を細かく丁寧に発信し続けています。組合員も店長からの発信を待ち、店長も組合員と関わりたいという良い関係性が築けています。

POINT.2 投票機能で参加しやすさを向上

声の集め方にはたくさんの方がいますが、和歌山県立医科大学生協ではTwitterの投票機能を使うことによって手軽に投票できる方法を採用しています。それもより組合員数の少ない医大ですが79票と多くの組合員が投票してくれているのが素敵ですね。また投票だけでなく、DMやリプ機能で自由な意見を求めていました。こちらには意見が集まっていないようなので、投票から生の声をできるだけ多く集めることができるかが今後の課題になりそうです。



POINT.3 組合員の声から事業のリスクを減らす



投票で集めた情報を事業につなげているところが教育的です。商品を店舗に並べる前に、Twitterで投票し、組合員の興味、関心がどれくらいあるのかを確認していました。反応が良ければ店舗に商品が並びます。医大の生協は規模が小さいため、どれだけリスクを減らせるかがカギになります。組合員との交流はもちろん、事業のリスクを減らすためにも組合員の声を集めることは絶対に必要ですね。

